

2009 年度 日本財団助成事業
 ライフセービング活動支援事業
 < 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会 >

■ 事業内容:

パトロールキャップ、救助器材の提供(器材支援)

- ・ 時期:2008 年 6 月～7 月
- ・ 対象:会員クラブ
- ・ 管理方法:各会員クラブにおいて管理
- ・ 内容: レスキューボード(50 本)

【実施報告】

レスキューボード(50 本)

応募の時点で、レスキューボードについては 47 クラブ 111 本の申請があった。審査を行い、32 クラブへの支援を実施した。

クラブ名	配布数
	ボード
JLA本部保管	4
石狩LSC	1
小樽LSC	1
柏崎LSC	2
宮崎LSC	2
今帰仁LSC	1
北谷公園サンセットビーチLSC	1
三多摩LSC	1
湘南ひらつかLSC	1
土肥LSC	1
大竹SLSC	1
鹿嶋LGT	1
皆生LSC	2
岩美LSC	2
西浜SLSC	2
大磯LSC	1
新潟青山LSC	1
三浦海岸SLSC	2
大洗SLSC	2
横浜海の公園LSC	2
西伊豆LSC	1
九十九里LSC	3
今井浜SLSC	1
鴨川LSC	1
下田LSC	2
式根島LSC	1
岡山LSC	2
館山SLSC	2
小田原LSC	1
辻堂LSC	1
浜田LSC	1
熱川LSC	2
神津島LSC	1
	50



地域におけるライフセービング研修会の実施(組織化支援)

- ・ 対象:会員、関係諸機関、その他
- ・ 内容:①高校生プログラム
②高校生競技会
③ライフセービングフォーラム

<①高校生プログラム>

■ 第6回高校生プログラム～海～

- 日時:2009年5月30日(土)10:00～16:00
- 場所:鵜沼海岸(神奈川県藤沢市)
- 目的:学生委員会が中心となり、高校生を対象にライフセービングを体験してもらう。
- 内容:レスキューボード体験(海の体験、救助器材の体験)、レスキューチューブ体験(サーフ技術の体験、器材を使った救助体験)、ビーチ競技体験(ビーチフラッグス、ビーチスプリント)等
- 参加;7団体47名



■第7回高校生プログラム～プール～

- 日時:2009年12月20日(日)10:00～16:00
- 場所:流通経済大学龍ヶ崎キャンパス室内プール
- 目的:学生委員会が中心となり、高校生を対象にライフセービングを体験してもらう。
- 内容;プール競技(マネキンキャリー、障害ネット等)の体験、簡単な応急手当や搬送法、レスキューシミュレーションゲーム等
- 参加;8団体59名



<②高校生競技会>

■ 第1回高校生ライフセービング競技会

- 日時:2009年5月31日(日) 9:30~17:00
- 場所:片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)
- 目的:高校生にライフセービング競技を通じて、ライフセービングの活動や競技の認知を促進し、継続した活動を促す。また、高校生同士の交流を図る。
- 種目:5競技8種目
 - ◇ ランスイムラン男女、ボードレース男女、ビーチフラッグス男女、タップリンリレー、綱引き
- 参加:8団体 72名



<③ライフセービングフォーラム>

■ライフセービングフォーラム 2010

- 日時;2010年3月13日(土) 9:30~16:30
- 場所;国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
- 内容;会員を対象にしたライフセービングに関する学術的な情報交換の場。今回はアジアをテーマとした特別講演を盛り込み、日本協会の活動報告とあわせて、アジアの現状から世界に向けた国際貢献の啓発をはかる。その他、専門委員会の活動報告やテーマセッションなど
- 参加;127名
- タイムテーブル
 - ◇ 09:30~09:45 主催者挨拶
 - ◇ 09:50~11:00 特別講演
 - ジャスティン・スカー氏(国際ライフセービング連盟 Child Drowning Committee 委員長)
 - 「アジアにおける子どもの水難事故防止の現状と課題」
 - ◇ 11:15~12:00 ディスカッション
 - 「アジア太平洋地区のライフセービングの課題と展望」
 - (パネリスト) ジャスティン氏、松本貴行・教育部担当理事、相澤千春・国際委員長
 - (司会進行) 高野絵美・広報事業/国際担当理事
 - ◇ 13:30~14:30 専門委員会報告
 - ①全国パトロール統計および全国海水浴場調査報告 (レスキュー委員会)
 - ②水難事故防止に向けての環境委員会の取り組み (環境委員会)
 - ◇ 14:35~15:05 学術研究報告
 - ①ライフセービングに関する文献・記事の収集調査
 - ②水辺利用者が求める安全知識に関する調査
 - ◇ 15:15~16:30 テーマセッション
 - 「ライフセービングの社会的役割」
 - (パネリスト) 中塚健太郎・レスキュー委員長、風間隆宏・環境委員、藤井正弘・ジュニア委員
 - (司会進行) 山本利春・副理事長



地域クラブ講習会への指導員派遣支援

- ・ 対象:会員クラブ
- ・ 内容:指導員不在の地域クラブが開催する講習会申請に基づき1講習会につき指導員派遣に対する旅費交通費の補助を実施。
- ・ 5団体8講習会への派遣支援を実施。

No.	講習会の種類	主催
1	ベーシック	神戸ライフセービングクラブ
2	CPR	広島ライフセービング
3	ベーシック	中部支部
4	CPR	中部支部
5	ベーシック	宮崎ライフセービングクラブ
6	アドバンス	宮崎ライフセービングクラブ
7	ベーシック	沖縄支部
8	ベーシック	沖縄支部

指導員養成講習会・指導員研修会の開催支援(指導員養成支援)

<指導員研修会>

- ・ 対象
 - 1)サーフライフセービングインストラクター・研修インストラクター
 - 2)ウォーターライフセービングインストラクター・研修インストラクター
 - 3)心肺蘇生法(CPR)インストラクター
 - 4)IRB インストラクター
- ・ 実施内容
 - 講習会指導上の留意点
 - CPR講習会の内容確認
 - コミュニケーションスキル
 - ベーシック技術の確認
 - アドバンス技術の確認

日程	会場	参加数
2009年11月22日(日)	片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)	13
2009年11月23日(月祝)	片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)	23
2009年11月28日(土)	片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)	8
2009年11月29日(日)	須磨海岸(兵庫県神戸市)	8

<関東会場>



<関西会場>



バックボードおよびネックカラー/AEDトレーナーの配備への器材支援(講習会器材支援)

- ・ 対象:アドバンス講習会等およびライフセーバー養成講習会等
- ・ 内容:バックボードおよびネックカラーの配備8セット/AEDトレーナー25 器
- ・ 配備:地域支部および加盟クラブの講習会活動状況および各クラブ所属の指導員数などを考慮し配置、講習会を軸とした普及活動にて活用。その他、JLA 主催競技会事業において参加選手(会員)を対象とした CPR&AED 研修会および競技会競技種目(学生選手権/全日本選手権; CPR コンテスト)にて活用。

配置状況	バックボード&ネックカラー	AEDトレーナー
北海道支部		3
北陸支部(新潟県)	2	4
神奈川県支部	1	2
中部支部(静岡県)	1	3
九州支部(宮崎県)	2	5
沖縄県支部	2	4
国際武道大学(千葉県)		2
東京健康科学専門学校(東京都)		2

<バックボード&ネックカラー;講習会での使用>



<AEDトレーナー;講習会および競技会CPRコンテストでの使用>



所有器材の利活用にもなう器材運搬費支援

- ・ 対象:各クラブ主催の各種講習会や研修会
- ・ 内容:所有器材貸出における往復器材運搬費の助成

水辺の安全管理体制に関する調査・研究

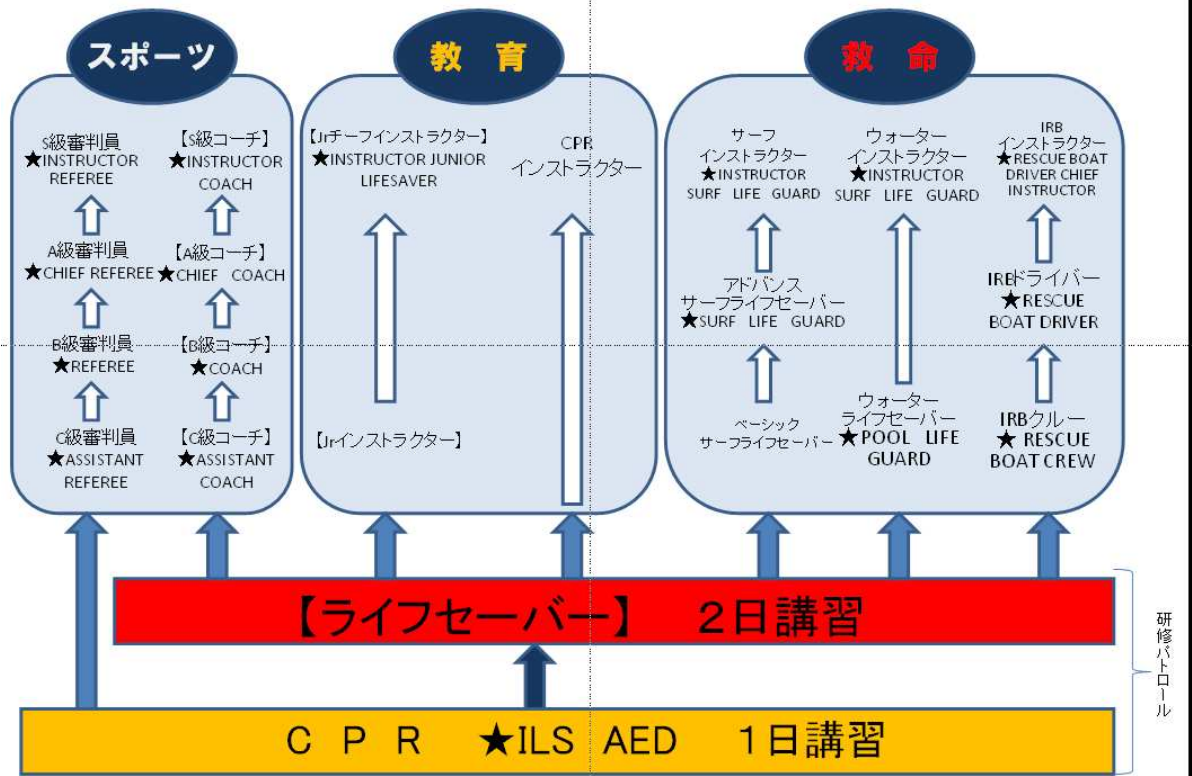
- ・ 全国パトロール統計調査
 - 調査主旨:有資格ライフセーバーが活動した海水浴場におけるパトロールに関する統計調査
 - 調査項目:基礎的情報、パトロールログ、レスキューレポート、ファーストエイドレポートなど
 - 報告:別紙報告書参照
 - (概要)パトロール中に発生したアクシデント数について、JLAの有資格ライフセーバーが実際に活動した全国 206ヶ所(JLA登録数は212ヶ所)の海水浴場のうち、2010年2月1日までに報告された138ヶ所の海水浴場からの集計結果をまとめた(回収率67.0%)。
- ・ 全国海水浴場調査
 - 調査主旨:海水浴場における監視救助体制の実態調査
 - 実施項目:救助器材の種類・状態、パトロールシステムなど
 - 調査箇所:
 - ◇ 神奈川県3ヶ所(片瀬西浜海岸、横浜海の公園海水浴場、サザンビーチ茅ヶ崎)
 - ◇ 沖縄県1ヶ所(北谷公園サンセットビーチ)
 - 過去の調査実績
 - ◇ 2008年度 過去の調査のデータ整理および調査フォーマットの作成
 - ◇ 2007年度 2地域 11ヶ所
 - ◇ 2006年度 2地域 6ヶ所
 - ◇ 2005年度 1地域 1ヶ所
 - ◇ 2004年度 5地域 11ヶ所
- ・ 全国海水浴場安全管理体制調査
 - 調査主旨:全国海水浴場の安全管理体制の現状調査・提言
 - 調査項目:クラブ運営、組織化についての事例調査
 - 備考:3年計画
 - ◇ 【2007年度・1年目・現状把握】全国海水浴場の現状把握、条例・海外事例調査
 - ◇ 【2008年度・2年目・実態調査】国内ライフセービングクラブ運営の事例調査
 - ◇ 【2009年度・3年目・提言】国内ライフセービングクラブ運営の事例調査および課題・提言
 - 報告:別紙報告書参照

「ウォーター・ライフセーバー資格」のプログラム開発費

- プログラム検討(講習運営委員会)
 - 検討内容:現存の「ウォーター・ライフセーバー資格」の検証ならびにプログラムの再開発
 - 期間:2009年4月～2010年3月
 - 方法:講習運営委員会内の会議にて実施
 - 会議開催日
 - ◇ 5/10(日)、6/18(木)、7/7(火)、7/8(水)、8/18(火)、10/12(月)、11/22(日)、11/23(月)、11/28(土)、11/29(日)、2/7(日)
 - ウォーター・ライフセーバー資格講習会のカリキュラム見直しを行い、その過程で、さらに導入編となるような新しいライフセーバー資格を新設することの必要性が見いだされ検討に入った。この新しいライフセーバー資格は、15歳(高校生)以上対象、2日間ほどで取得できる低価格なものを概要として立案した。2010年度では、若年層の取り込みと会員拡大へ重点テーマをおき、実際の実施・運用に向け、多方面の人材でワーキンググループを作り、カリキュラム詳細の検討へ入る。

資格体系の見直し(案)H21.12.13

★ILS認可の可能性



日本財団助成事業 ウォーター資格再構築と連動して(教育部)

I. プロセス

- 1、ウォーター資格のあり方とカリキュラムについては早急に見直し、稼働させる(稲垣委員長より引き継ぎ事項)※①
- 2、平成19年度より予算と計画実施、運営委員会にて途中経過報告、平成20年度も継続検討事項として取り扱う。
- 3、平成21年度、具体的なカリキュラム再編ではなく、すべてにおける水辺の基礎講習となる「ライフセーバー」(仮称)資格としての方向性を検討。ウォーター資格に精通した「中見、上野、岡沢」の三者によるヒアリングを実施。新資格設置の目的※②を再確認し、カリキュラム内容と実技についての骨子を固める(委員が実技研修を実施)。

※①・・・講習会開催数(H16、17-0回 H18-1回 H19-1回 H20-2回 H21-1回) 資格有効者24名
 ※②・・・ a. ライフセーバーとしての全ての基礎となる講習会の確立
 b. 若年層(高校生)からの参加受付を可能にする(会員獲得)
 c. プール安全管理への裾野を広げ、対策を強化していく

II. ILS認可に向けた連動とコンセンサス

- 1、現行のウォーター資格にILSより指摘を受けた項目を充足し、認可を目指したい(要審議→その決定機関は?)
 →プール年間雇用の需要、指定管理者制度などの背景から、雇用側のニーズに応えられる内容とロイヤリティ
- 2、ILS認可を目指すことで、ウォーターの質とハードルは上がる→別途、再構築の過程で見えてきた新資格の導入を果たすことで、上記※2にあげた目的を果たし、ウォーターセーフティを広く伝えていく機会を創出できる。
 (講習時間14時間(2日間)／満15歳以上(中学生を除く)／受講費1万円前後／静水域水深1.0m以上)

III. 新資格導入のビジョン(教育部担当理事として)

- 1、新規「ライフセーバー資格」はJLAが根幹とする「水辺の事故防止」の視点から、すべてのライフセーバーの登竜門となる位置づけを展望に持つ。委員会における横軸との連動を果たす意味(クロスファンクショ)でも、今後、この資格と「CPR資格」がJLAの根底を支える可能性を鑑みて、関連委員会や理事会を通じて煮詰めていきたい。
 (ロジュニア教育委員会-ジュニア指導者資格を検討中 □競技力強化委員会-コーチ制度資格を検討中)